

ひとくちに移民といっても 受け入れる国次第のようだ

新年から暖かくメダタイ話をしよう。まともな男であればラブ・ロマンス映画なんて言う物は見ないし興味がないものである。まして50過ぎた農家のおやじが見ることはあり得ない、しかし見てしまった。それも2本も。成田からスキポール（オランダ）に向かう飛行機の中でじっくりと見てしまった。

普通だったら食事をして歯を磨き、鼻炎の薬を飲み、その副作用でぐっすり寝てしまうのだが、間違っただけで副作用の少ない鼻炎の薬を持参してしまい、ガンガン目がさえてしまった。隣席の金髪おやじと語らってもつまらないので、仕方なく映画を見ることになった。1本目は「500日のサマーズ」2本目は「男と女の不都合な真実」。内容は…、ヤメとこ。みなさんお金を払って見てください。この映画はラブ・ロマンスと言うよりも半分コメディ系だったので、すらなりとみることができたのだろう。で、農業と何の関係があるのか？ほとんど関係がないのだが、世情を反映しているのか、上級クラスのシートはほとんどコケージアン（白人）ばかりで、日本人はほとんどいなかった。こりゃ生産者も稼がないとエ

コノミークラス症候群で倒れてあの世に行って、喜ぶのは保険金もらってニタニタする家族の顔を想像したくないものだ。実は帰りの飛行機の中で、あるご婦人が倒れて顔にけがをされた。日本人とオランダ人のお医者さんが対応されていたので、スチュワードに「お医者さんはいつも乗ってるの？」と聞いてみた。答えはあっさり「はい、必ずいますね」だって。というわけで飛行機の中で具合が悪くなってもすぐに天国に行くことはなさそうだ。

Vol.23

トラブル続きのドイツ、どいつのせいや～？

乗り継ぎのドイツ・ハノーバー行きは満席で取れなかつたので、150km離れたブレーメン行きに乗り、1泊して翌朝、目的地に向かうために高速列車のチケット購入をした。もちろん一等車。乗車して驚いた。席が空いていないのだ。仕方なくトイレ近くで1時間ちよつと立っていた。車掌が来て我々の切符を調べるときに、他に隠れていないか探す仕種をしたので、さすがにカチンと来て「1等料金払って立ちっぱなしは



初めてだ」とクレームを言ったら、「今日は空いているシートないよ」と言い放った。これが規則にうるさいゲルマン民族の魅力なのだろう。またまたトラブルが発生した。宿泊先のドイツのホテルである方が財布を落としたり、一応ホテルに届け出たが、ご本人には「出てきませんよ」と冷たく答えておいた。私が昨年2月にラスベガス

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

宮井 能雅
1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンドイヤ代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

に行った時にクレジットカードをミラーージュのレストラに忘れ、その後2日経って気付いき、セキュリティーに電話したら「はい、ありますよ」。もちろんセキュリティーには10ドル程度のチップを渡した。

この違いはなぜ起こるのだろうか？
簡単である。ホテルの客と従業員はすべてドイツ人だったからだ。

これがヨーロッパと米国との違いでもある。米国は移民の国で、もし移民が何か悪いことを企んだら、米社会は移民を許すことはしないだろう。案外知られていないが移民の割合でいえばドイツの方が上で、人口の20%が移民だそう。もし移民の従業員が多ければホテルで財布をなくしたら、別の結果になっていたかもしれない。

2020年には100万人程度、日本国内の労働人口が足りなくなるそう。その時、日本国民はどのように判断するのだろうか。アジア諸国から移民？やはり中国やインドになるのだろうか。もしかして200万人いる農業生産者の半分を都市人口に移行させる計画が密かに始まっているかもしれません。それにあなたは含まれますか？

左翼生産者はずいぶん、ドイツだ、フランスだと言うが一体全体、あなたとどんな関係があるんだと聞きたい。

親戚でもいるのか？彼女でもいるのか？ユーロでも恵んでくれたの？幻想とおとぎの世界で夢見る少年、少女をやって何が楽しいだろう。それにドイツは戦争を2回も自分の意思で始めて2回ともコテンパンにやられたハンカクサイ国であることを忘れてはいけない。

米国のまぐろとソウルフードは、日本でもまぐろやれる

ドイツのタクシーに乗っても必ず違う国の出身者に会う。イランの運転手は「ノース・コリア・フレンド！」、ロシアの運転手は「プーチン最高！」、パキスタンの運転手は「インド人殺してやる」と叫ぶ。みなさん国情を表す感情豊かな運転手ばかりだったが、フランスで経験したようなポッター・フランス人運転手はいなかった。心から応援したい頑張り移民ヒーブル！

なぜヨーロッパの食事はあんなに高いのだろうか。明らかに日本より高いと思うし、重量値ではアメリカの2倍はするだろう。確かにきれいにデコレーションされているが、口に入ってしまった後は栄養価だけの問題だ。特にサラダが高いと感じた。それに米国の様にドレッシングを聞いてくることもほとんどなかった。ちよつと知恵のある人は米国のファ

スト・フードはダメだ、これからはスロー・フードなんてことを言うが、駅のレストラで客入りが一番多い店は米国資本主義の御旗であるバーガー・キングであった。

ところでなぜこれほどハンバーガーを毛嫌いする人が多いのだろうか。パン、肉、野菜の3拍子あるのに、特にバーガー・キングはマックより多くの野菜がある。本当にファスト・フードは悪いのか？じゃ新橋の立ち食いそばはダメなの？おにぎりって究極のファスト・フードだと思っただけなあ。ドイツの駅食にだって、堅いパンに太いソーセージだけの、ひとつ間違えれば、ホットドック屋がたくさんある。それを考えるとヨーロッパがファスト・フードの発祥地と言っても過言ではないかもしれない。

ドイツでは、旧友農家へニングを訪ねた。25歳になる息子ヤンが我々のレンタカーに同乗する機会があった。ある街を走っているとポルシェが後ろから迫ってきた。そしてヤンが話した言葉が印象的であった。「ほら、ポルシェの助手席に乗るのは金髪しかない」。この息子も金髪好きのようです。聞くと1年間スウェーデンにいたそうだ。私が「どうだった？」と聞くと「金髪・ブルーアイばかりでとてもよか

った心」とニコニコして話してくれた。巷ではGMは既存の作物と交雑交配をして自然環境を変えるなんて言う人もいるが、金髪・ブルーアイの種の保存にも協力してあげよう。

チップ制度についても考えてみよう。個人的にはレストラなどでチップを払うことに何ら問題はない、というか日本でも積極的に導入しても良いのではないだろうか。米国のレストラに行くとも10年経っても同じひとが働いていることがある。やはり顔見知りのお店に行くのは決して悪い気はしないし、安心できる。

国内の様に学生のアルバイト程度に考えるから、いつも社員教育が必要になる。長く働いてもらうために、チップ制度を導入した方がお店、従業員、客みんながうまくいくと思うのだが……。ケチイ大和民族には無理かな。いやいやそんなことはない。米国でうまくいっていることは必ず日本でもうまくやれる。真似してダメなのは銃社会とドラッグくらいなもので、ガンガンと米国のコピーをしていきましょ。

ヤンは、今年の7月に私の農場に来て麦刈りを手伝いたいと申し出たので、断る理由もないのでOKした。一番喜んでるのは私ではなく、イケメン好きで12月からドイツ語の勉強を始めた妻である。